

人文研アカデミー

2025

市民共創セミナー

京大人文研

アーカイブズ講座

「戦争体験」を いかに伝えるか？ 記憶と記録のこれまでとこれから

〔報告者〕

佐藤明俊（奈良県立図書情報館）

「奈良県立図書情報館と

戦争体験文庫のこれまでと現在」

新垣瑛士（南城市教育委員会）

「地域史編さん事業と沖縄戦

——沖縄県南城市の事例——

兼清順子（International Network of Museums for Peace）

「展示を通じた戦争体験の継承をめざして」

森谷理紗（京都大学人文科学研究所）

「音とイメージによる戦争体験の想起と

アートを通じた歴史継承の試み」

〔コメンテーター〕

根本雅也（二橋大学大学院社会学研究科）

〔司会〕

李英美（京都大学人文科学研究所）

須永哲思（京都大学人文科学研究所）

2025年
10月26日（日）

13時～17時30分 対面にて実施

京都大学人文科学研究所本館
4階大会議室

〔主催〕 京都大学人文科学研究所

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

〔共催〕 京都大学人文科学研究所附属人文情報学創新センター



〔問い合わせ〕 京都大学人文科学研究所 総務部

Tel. 075-753-6902（平日9:00-17:00）

e-mail. z-academy@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

（人文研アカデミー専用メールアドレスのため、総務掛宛の問い合わせには対応できません。）

<https://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>

「戦争体験」を いかに伝えるか？ 記憶と記録のこれまでとこれから

アジア・太平洋戦争の終結から80年。戦争を体験した世代の高齢化が進み、直接体験を聞く機会は急速に失われている。こうした状況で、私たちは戦争の記憶を、どのように次の世代に引き継いでいけるのだろうか。

現在、全国各地で戦争体験の記録と保存、そしてデジタルアーカイブの構築など多種多様な取り組みが行われているが、単に記録を残すだけでなく、それを次世代が受け取り、現代社会に活かす方法が重要な課題となっている。

本講座では、各地の継承の取り組みについての知見を共有し、収集保存した記録をどのように社会に開いていくのか、その方法について話し合う。地域ワークショップや平和教育の素材づくり、市民参加型の聞き取り、博物館の展示など、一方向的な引き継ぎを超えた双方向的な対話の可能性を探る。



佐藤明俊 (さとう あきとし)

奈良県立図書情報館

日本近代史専攻。牛久市史編さん室・板橋区教育委員会・栃木県二宮町(現真岡市)史編さん室等を経て、2009年より現職。国立公文書館認証アーキビスト及司書・書芸員資格を持つ。



兼清順子 (かねきよ じゅんこ)

International Network of Museums for Peace
共同代表

博物館学修士。2007年から23年まで立命館大学国際平和ミュージアム学芸員。
近著に『戦争を展示する——戦争博物館の過去・現在・未来』(2025年大月書店、佐々木真他編著)分担執筆。



新垣瑛士 (あらかき えいじ)

南城市教育委員会

南城市教育委員会文化課市史編さん係。市史編さんとデジタルアーカイブを担当。現在取り組んでいる作業は、沖縄戦体験証言の整理・公開、南城市における戦後産業史の調査、地域住民より収集した写真の公開など。



森谷理紗 (もりや りさ)

京都大学人文科学研究所

音楽学・芸術学の立場からシベリア抑留の文化活動を研究し、再現楽器プロジェクト等の実践も展開。現在は南方抑留、沖縄戦、戦傷病者等の手記・体験記や二世・三世への聞き取りへと研究範囲を広げている。

【コメンテーター】 根本雅也 (ねもと まさや)

一橋大学大学院社会学研究科専任講師

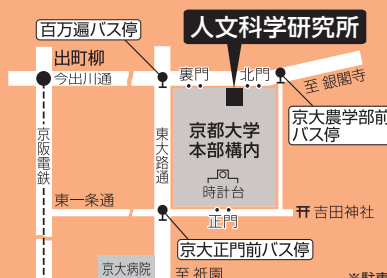
一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。博士(社会学)。専門は社会学。主著に『ヒロシマ・パラドクス——戦後日本の反核と人道意識』(勉誠出版、2018年)、共編著に『原爆をまなざす人びと——広島平和記念公園8月6日のビジュアル・エスノグラフィ』(新曜社、2018年)など。

【司会】 李 英美 (り よんみ)

京都大学人文科学研究所

須永哲思 (すなが さとし)

京都大学人文科学研究所



- 京阪電鉄
「出町柳駅」下車徒歩15分
- 市バス
3・31・65・201・206系統「百万遍」下車
17・203系統「京大農学部前」下車徒歩1分
- Hoopバス
「京都大学前」下車徒歩8分

※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。